

令和2年度第1回地方独立行政法人加古川市民病院機構評価委員会 議事要旨

日時 令和2年7月14日(火) 16時00分から17時45分

場所 加古川中央市民病院 3階 会議室1

出席者(委員) 森脇委員長  
加堂副委員長  
中田委員  
溝端委員  
石井委員

報道関係者 2名

傍聴者 0名

- 会議次第
1. 開会
  2. 委員長及び副委員長の選任
  3. あいさつ
  4. 諮問書の提出・受理
  5. 議題
    - (1) 令和2年度の評価委員会開催予定について
    - (2) 令和元年度運営状況の概要について
    - (3) 令和元年度業務実績に関する評価について
    - (4) その他
  4. 閉会
  5. 事務連絡

配付資料

資料1：令和2年度評価委員会の開催予定

資料2：令和元年度経営状況（概要）

資料3：令和元年度財務諸表等

- (1) 財務諸表及び附属明細書
- (2) 決算報告書
- (3) 事業報告書
- (4) 会計監査人監査報告書
- (5) 監事監査報告書

資料4：令和元年度業務実績報告書

1. 開会	<p>開会の宣言</p> <p>&lt;井部福祉部長あいさつ&gt;</p> <p>新たな任期への委員就任のお礼及び開会のあいさつ。</p> <p>現在は新型コロナウイルスとの闘いがありますが、市民病院が地域の基幹病院として、また、地域の方の健康を支える病院として開院して以来、委員の皆様と機構の皆様のご尽力により、運営、経営とも順調に推移している。委員の皆様方には引き続き市民病院のあるべき姿、方向性について、貴重なご意見、ご提言をくださいますようお願いしたい。</p>
2. 委員長及び副委員長の選任	<p>委員の互選により、森脇委員が委員長に、加堂委員が副委員長に選任された。</p>
3. あいさつ	<p>&lt;森脇委員長あいさつ&gt;</p> <p>いろいろな場所で新型コロナウイルスの影響が出ており、今後、どのようになるのかもわからない状況である。そのような中でも、市民病院がますます発展していくよう、評価委員会として、しっかり意見していきたい。</p> <p>&lt;加堂副委員長あいさつ&gt;</p> <p>新型コロナウイルスの影響、また、地域医療のあり方の問題も含めて、今年も当然だが、次の中期目標期間の5年間も変わっていかなければいけない時になってきている。我々評価委員会もしっかりと考えていきたい。</p>
4. 諮問書の提出・受理	<p>市長が公務のため、井部福祉部長が諮問書を読み上げ、森脇委員長へ手渡した。</p>
5. 議題	<p>(1) 令和2年度の評価委員会開催予定について</p> <p>令和2年度の評価委員会の開催予定について、資料1に基づき事務局から説明を行い、委員の了承を得た。</p> <p>(2) 令和元年度運営状況の概要について</p> <p>令和元年度の運営状況の概要について理事長から報告があり、続けて、経営状況及び決算概要について、資料2に基づき法人担当者から説明を行った。</p> <p>(委員の主な意見、質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響がどの程度出ているか心配したが、令和元年度においても順調な経営を維持できている。</li> <li>・前年度と比較して、利益が減となった理由は何なのか。</li> <li>・高度医療に取り組むことで、費用はどうしても上がってしまうのか。</li> </ul> <p>(法人回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・減となった理由は、スタッフの増加による人件費の増、また、材料費、医薬品費の増など、費用の増に対して、収益の増が伸びなかったため。</li> <li>・がん治療でいうと、化学療法薬は次々と新しいものが出てくる。価格交渉はしているが、新しい薬は基本的に値引き幅が小さい。</li> </ul> <p>患者に負担を掛けない治療を選択するよう心がけており、治療によって</p>

	<p>は、保険請求できないものもあり、新しい治療は良いが、コストが高いため、バランスを考えながら取り組んでいく。</p>
	<p>(3) 令和元年度業務実績に関する評価について</p> <p>令和元年度の業務実績の概要及び法人の自己評価のポイントについて、資料4に基づき法人担当者から説明を行った。</p> <p>(委員の主な意見、質問)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公立病院として、患者・地域・職員にどう満足してもらうのかが大事だと考える。</li> <li>・令和元年度において、各指標、これまでに比べ伸び率は低下したものの、下がっている項目はなく、全体的に成果を出していることは、機構の努力の結果と考える。</li> <li>・新型コロナウイルスに対する対応が早く、地域の医療崩壊を防いでくれている。</li> <li>・コロナ禍にも関わらず、全ての項目において、昨年度と同様に成果を出している。</li> <li>・全体的に順調に取り組まれている。電子カルテと外部インターネット環境を切り離すなどのリスク管理にも取り組んでおり、そのような取組は大事である。</li> <li>・今後、新型コロナウイルスをどう乗り越えていくのかが重要である。</li> </ul> <p>(法人回答)</p> <p>新型コロナウイルスへの対応は、感染対策室を中心として、1月末には感染症対策フロー第1版を策定、また、2月以降は院内感染を防ぐため、職員の健康管理（家族も含む）を実施、また、コンテナを設置し、コロナ疑い患者と救急患者の動線分離、対策会議を毎週開催するなどの対応をとった。早期より徹底して対応していたため、4月に医師が感染はしたが、感染前に家族の発熱の報告を受け、10日前から休ませており、院内感染を防ぐことができた。</p> <p>今後は、冬のインフルエンザへの対応や外来患者の密を避ける方法の検討が必要と考えている。また、第1波の検証を実施しており、次のコロナの波に備えたい。</p>
	<p>(4) その他</p> <p>意見なし。</p>
4. 閉会	<p>&lt;加堂副委員長あいさつ&gt;</p> <p>高齢者がいる病院などは、コロナ対策は重要である。いかに病院を守っていくかが、今後の課題である。今年度は、引き続きコロナ対応がある中で、法人が計画に基づいてしっかりと運営していくことを期待している。評価委員会としてもしっかりと意見していきたい。</p>